SATSUMA×WORK

さつま×しごと

Vol.13

大工×左近允 杏奈

左近允（さこんじゅう） 杏奈（あんな） さん（21）

佐志地区在住。薩摩中央高校生物生産科を卒業後、実家の左近允工務店（現在の㈱左近允）に入社。遺品整理士の資格を持ち、さつまdeまちゼミでは、エンディングノートの書き方や、かんなくずを使った花づくりの講師も務めている。

▼1976年に創業した株式会社左近允は、佐志地区で地域に根差した家づくりを目指す工務店。棟梁（とうりょう）の左近允正志さんが代表を務め、温もりを感じる木の家づくりを得意としています。いずれ家業を継ぐべく3年前から同社で働いているのが、長女の左近允杏奈さんです。

▼父の背中を見て育った左近允さんは、幼い頃から大工になることを夢見ていました。過去に本紙で掲載していた「人・夢」のコーナーでも、「大工になり、私が建てた家に住む人を笑顔にしたい」と将来の目標を話しています。そんな左近允さんは薩摩中央高校を卒業してすぐに同社に入社しました。「社会に出て考え方が変わり視野が広がりました」と話す左近允さん。先輩社員や職場で知り合う職人に教わりながら多くの経験を積む毎日。父の正志さんは「自分で考えて一人で仕事ができるようになるには最低10年は必要」とその長い道のりを話します。

▼「資格がたくさん欲しくて」と話す左近允さんは、遺された家具や仏壇、アルバムなどを整理できる遺品整理士の資格を取得しました。町の空き屋バンクにも登録する同社が空き家を取扱いやすくなるほか、事業者がお客さんにプロのノウハウを教える「さつまdeまちゼミ」では、エンディングノートを作る講師も務めました。

▼左近允さんは「仕事は楽しいです。何も無かったところに建物が建つ新築や、元の姿と全く違ってきれいになるリフォームも達成感がすごくあります」と目を輝かせます。現在の目標は2級施工管理技士の取得。「大工になる」という夢を叶えた左近允さん。これからもその揺るぎない意志で目標に向かって基礎から築き上げていきます。

仕事道具を入れる腰袋。やっと使用感が出てきたことがうれしいと話します。

左近允（さこんじゅう） 杏奈（あんな） さん

佐志小学校6年

私の建てた家で、笑顔に

佐志小学校6年の頃の左近允さん。「大工になる」という夢を実現させました。2012年12月号掲載。